

公表

事業所における自己評価総括表（保育所等訪問支援）

○事業所名	鳥取県立鳥取療育園		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3	(回答数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員として、各種専門職(PT,OT,ST,保育士,児童指導員,看護師)を配置し、専門性を活かした助言を行うことができる。	対象児童や訪問先の状況にあわせて、訪問支援員の職種を選定している。 また、経験年数の長い職員に短い職員を同行させ、スキルアップを図っている。	より細やかに児童をアセスメントし、状況にあわせて柔軟に訪問支援員の職種を選定し派遣する。
2	訪問実施前後に、訪問先と児童の様子や支援場面について情報やニーズの共有を細やかに行っている。 訪問後には、保護者へも訪問時の様子等の報告・共有を細やかに行っている。	訪問実施後には、訪問先職員と振り返りの時間を設定し、児童の活動や生活の様子について聞き取りを行っている。またそれを踏まえ、訪問時の支援や対応を話し合ったり訪問先施設が対応可能な支援方策について提案したりしている。	左記の取り組みを継続しつつ、さらに様々なニーズに対応できるよう訪問支援員のスキルアップを図る。
3	他機関※との情報交換・会議参加、実支援場面への見学や職員研修の機会があり、専門性の向上へ取り組んでいる。 ※県内県立療育機関、相談支援事業所、保育園、幼稚園、学校、児童発達支援	関係機関とは、活動の場をお互いに行き来しての情報共有を積極的に行っている。また、見学・訪問後には、振り返りの時間を設定し、訪問時の支援や対応を話し合っている。	左記の取り組みを継続し、児童の細やかな情報共有やアセスメントにつなげる。また、さらに様々なニーズに対応できるよう訪問支援員のスキルアップを図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当園が行っている事業の仕組みや外部評価の在り方について、園内での周知が不足している。	対利用者・関係機関の支援に注力し、施設全体についての細かい説明が不足している。	改めて、園事業や年間スケジュール等について説明・共有の機会を持つ。
2	県立機関であり、定期的な人事異動のため職員の経験年数が一定しない。	療育機関での業務従事経験が長い職員の経験に頼った支援となりがちになっている。また、他事業との兼務や実支援にかかる時間が長く、職員育成の取り組みが十分にできていない。	計画的な職員育成のために園全体で取り組む。 保育所等訪問支援では、業務従事経験が長い職員と短い職員でペアを組み行い児童の姿や支援について、実際の支援場面で助言していく。
3	訪問先での非常時の避難経路等について、訪問先と当園との情報共有が不十分。	緊急時は、訪問先職員の指示に従って対応することを想定していたため。	訪問支援開始時には、緊急時等の対応についても確認・共有が必要。